

倉橋先生から

学んだこと

人、それぞれ、学生時代の有形・無形のノートを持ち、先生の「おことば」や「お教え」は、その後の人生そのものを方向づけることも多いと思われまます。

また若年ゆえに、その時点では理解が浅く、さして重要とも思われずに過ごしてきた事柄などが、幾星霜を経た、ある時、忽然と水底から浮上するように、その深い真意が理解される、といった経験を持つこともあります。

倉橋先生の講義録の掲載を機に、講義、講演、また日常のふれあいや保育実践の中で、特に印象深く重要と思われる部分。ご自身として大切にしていच्छやったこと。更に「保育の心」として後輩に、これだけは伝えておきたいこと等、旧東京女子高等師範学校保育実習科卒業生の方を中心に、お書きいただきました。



安村ふさ 付属幼稚園勤務

倉橋先生の『幼稚園の先生というものは表面は楽しく見えるが、おもしろいしつまつをしたりこまやかな心づかいがあるものだ、あなたならできる』とのおことばに力を得て予想もなかった幼稚園に奉職いたしました。五十年も前のことでございます。

ある時『何かこともに注意したいことがあったら先ずほめてからにしないで』といわれ、はっと気がつきました。

その後の先生の静かなほほえみの中に、ある時は、無言の励ましを、又ある時はお叱りを感じながら育つものを育てる、その手伝いをするという気持ちで勤めたつもりでございます。

戦争中の僅か数年でございましたが、楽しくも貴重な、なつかしい思い出でございます。

沼館正尾 大正十三年卒

倉橋先生の著書『幼稚園雑草』の「我等の途」には「教育は人情の発露である。人情だけでは教育は出来ない。研究がある。設備がある。方法がある。しかし之等は皆人情の土台の上に築かれるものである。之等のものが如何に完備しても人情の欠けた処に教育はない。我等の教育に常に潤澤なる人情味を湛しめよ。もつと大膽にあたりまえの人情を流露せしめよ。そこに初めて自分も生き子供も生きる。」とあります。

私はこれこそ教育の原点で有り、最高の理想だと信じます。五十年に渡る子供との関わりは今なお試行錯誤の毎日であり、実践はいかに難しいかを痛感しています。

悩む時は青空を、心ない言葉はかけるな、子供の真剣な生活を大切に、滲み出る教育、待つ教育等、子供を熱愛する先生の教えは、私達幼児教育者の心に警鐘を与え、反省と光明をもたらし、常に教え導いて下さいます。

現代は先生の理論を繰り返し研究する時ではないでしょうか。

柴田みどり 大正十四年卒

お茶の水で倉橋先生の講義としてうかがいました。

同級の山村先生とも暗唱し、自由遊びの根底と思っております。

「生活を、生活で、生活へ」

川崎千束 昭和三年卒

◎自ら育つものを、育てる。

幼稚園令の解釈からお講義が始まり、令の条文中、育成とはせず「培養」とした意味の深さを力説されました。

「育ての心は相手を育てるばかりでない。自分も育てられる明るい世界なのである。」

◎私が大切にしてきたこと。

- 保育の中での温み。
- 子どもの今を大切にすること。

・日々心を新たにし、精神生活の広がり努める。

◎年々、学生への躰のことは。あなたのもつ真実性だけは、どんな幼い心にも届かずにはいない。方法でも術でもない、ある日ある時、ふとにじみ出るあなたの真実性こそは、強い深い感化を与える。(育ての心より)

清水光子 昭和四年卒

倉橋先生のお講義を教室で、または講習で伺ってから半年以上もたつのに、今、平成元年の、近く出される新幼稚園教育要領の基本理念や内容が、びったり一致するというのはどういうことであろうか、と唯々感じ入るばかりである。

私が教室で受けた授業は、保育学、保育原理、教育史であった。そのどれも授業中は、あの面白く和やかなお話に魅せられて笑ったり感じ入ったり夢中だった。

ノートはといえば板書された第一章〇〇とか第二節〇〇とか書いてあるばかりで、大事な内容を試験の前に懸命に思い出そうとしても、うまくいかず困ったものであった。

しかし先生は非常に深い内容を、さまざまな文化的なものに結び付けて講ぜられた。先生のお好きだった六代目菊五郎の歌舞伎、東西の名画、例えばミレーや慈母観音、大観の富士、浮世絵、能などに現れている「人間性とは何か」を示唆されたこと、また味覚に関してというよりご馳走の話や、名苑や自然の景観について、あの豊かな感性を通しての巧みな表現に、私達は全く夢中でききほれてしまった。

その中で特にこの頃思い出されるのは、『五目ずし』である。半世紀前頃の保育内容は「保育五項目」で、唱歌、遊戯、談話、観察、手技であって、前教育要領の六領域に似たものであった。その頃も今も同じように、それらを教科のように教えると考える保育者、時間割に従って授業するという幼稚園が多かったようである。

先生のお考えはそうでないことは言うまでもなく、幼児のひとりひとりの発達に即した一さながらの生活。遊びを基本にした一生活を、生活で、生活へ一ということであった。

その実際を『五目ずし』に例えられた。五目ずしのおいしさは、その具、椎茸、干瓢、人参、蓮根、穴子などの一つ一つがおいしくできていて、それらがすし飯と渾然一体となって味わい深くなるのである。その上にのせられた玉子、のりなどの美しさとともに、具が別々にとり出されておいしくなくて『五目ずし』（生活）の中に渾然一体となった五つの具（項目）なのである。と言われたものと私は今も理解している。

小学校低学年で生活科が出来、総合学習ということがいわれているが、それもこのような考え方がよいのではないかと思っている。

倉橋先生はお講義のときはもとより、文章では「ことば」「文字」の使い方に変な配慮をされた。子供とかかれず子どもとされ、友達でなく友だちであった。

幼稚園保育法真諦が出されたのは私が付属幼稚園に就職した年の七月であって（初版の先生のご署名をいただいて私の宝物になっている。）その真諦という意味が序に記されている。

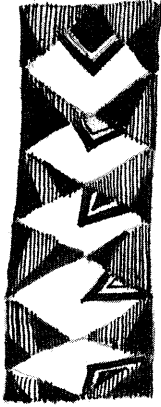
「保育法真諦とはわれながらおこがまし過ぎる僭称である。」との謙虚な言われ方、しかし「疑惑と

攻究と、又いつも付きまとう遅滞とを経て、やっとここに落ちついた考え方なのである。自分だけでは、少なくとも今のところ、これを真諦と信じている。」と。

諦、ということばの意味を何度か先生は説明してくださった。不勉強な、物わがりのわるい生徒であった私。その時かどうかわからないのだが「似ているけれど innocent と ignorant は大へんな違いですよ。」といわれた。兎にかく何もかもお見通し、でも決して相手をお傷つけるようなことはいわれなかった。「相手を尊重する」ことをご自分から示されていた。

それで「自分は○○主義ということはない。」と言われていたのに世間では自由主義者とみている人が多かったようで、殊に戦争中の風当たりは強かったのでは、と思う。自然主義者といわれておられたのもお講義にルソーの教育論を引用されたことからかとも察せられる。

「フレibelの精神を忘れて、その方法の末のみを伝統化して……」と序文にもあるようにフレibel主義というような、主義にこりかたまって広い視野を持ってないことのないようにと常に言われていたのが、かえって「八方美人」とのかげ口にもなったようである。



それにしても菊池ふじの先生が田村（大岡）薫さんのノートで勉強をなきったということは何とすばらしいことだろうか。菊池先生は私が学生の頃からあこがれの先生であったし、今も猶その思いは変わらない。田村さんとも数年同僚だったわけで、今更ながらこのような方々と朝夕をすごした日々のある我身の幸せを切に有難いと思う。

私の個人的なことであるが息子のひとりが反抗期（小学校上級〜中学生）で、事毎に母親（私）にたてつき、ほとほと手を焼いて先生にご相談したことがあった。「何せ、ああ言えばこういう、怒りたくなって、つい怒ってしまうのです。」と訴えたとき、「あなたがほんとうに怒りたいときは、人間として怒ったらいい。」と言われた。ああそうか、怒りたいときは怒ってもいいのだな、とうれしかったのだが、よく考えてみると簡単に怒っていいのではないのだ。と家に帰りつく頃にはじんと胸にしみる思いだった事を、その時の先生のお顔、お声とともに今でもはつきり浮かぶのである。それは、それから一週間後に先生が倒られたとのお知らせをいただいて、かけつけたのであったから……。

八坂富子 昭和七年卒

講義から学ぶ

今半世紀あまり前の茶色く変色した二冊の大学ノートを丹念に読みかえしながら私が歩んだ保育の道と重ね合わせて感無量のものがあります。

何か迷いが出たり、新しい課題に当面した時にいつも先生の保育の原点に戻ると心が安らぎ前進出来るのです。

第二章保育法の原理 1 自発の原理。2 具体の原理。3 活動の原理。4 社会的原理。

第三章保育法の原則 1 間接教育の原則。2 相互教育の原則。3 機会教育の原則。4 充足の原則。

5 生活誘発の原則。

第四章保育の方案 保育案。

時代が移り法令の改正を経過しても底を流れる思想は連綿と生き続けていました。

秋山ちえ子 昭和十年卒

倉橋惣三先生に教えられたこと

—— 若い未熟さを悔やむ ——

倉橋惣三先生から保育学の講義を受けたのはもう五十数年前になる。五十年たてば大方の事が快い思い出となるか消えてしまうのに、先生の事を思うと今も尚身の縮む思いが抜け切れない。それは偉大な幼児教育学者の価値を知ることが出来なかつた学生時代を含めた二十代、三十代を深く恥じ入るからである。自分のものさしでしか相手を計れぬ若者の狭量さとそれを良しとする思い上がりじくじに忸怩たる思いなのだ。

先生は幼児の自発性の尊重を強調された。幼児教育にたずさわる者は腕のいい熟達した園丁の目と心を持ってと説かれた。その頃、教育は縦割りの管理下の中にあり、規律を教えこむことが第一とされ

た。そんな時、倉橋理論の実践の場であった東京女高師附属幼稚園では、子どもたちが自由に遊び廻る時間が尊重されていた。朝、幼稚園に来た子どもは、一人々々思い思いの遊びをはじめ。砂場に行く子、ままごとをする子、本を見たり絵を描きはじめる子、山を駆け廻る子等々。全員が朝礼をして歌ったり踊ったり時間は無い。一クラス毎に子どもたちの心の動きと流れを見て、教師はピアノを弾き、広い遊戯場でとんだりはねたり踊ったりすることはあるが。

一斉に号令の下に教えこむ仕事は一人の教師の手で容易だしその成果も適当に知ることが出来る。が、自発性を尊重となると、指導者の力量が問われるし、未熟な者は無責任になる恐れありだ。

が、附属幼稚園の場合、一クラス三十人の幼児に正規の先生と助手、それに加えて実習生とよばれる学生が四人配置されて子どもたちの言動を見守った。伸びようとすする芽をさがすこと、育成することとは、附属幼稚園という特別扱いの所だから出来ることと思つた。

しかし幼児の教育は小学生、中学生とは異なつたものであることを思うと、附属幼稚園のようであることが望ましい状態であるといえるように思う。倉橋先生はその実態を見せて下さつたが、私は現実には押しつけ附属幼稚園の姿は理想論としか見ないことが長かつた。

人間形成の基礎部分に大きな影響を与える幼児教育に対する倉橋理論を理解し出したのは、教育のあり方を広い視野で眺められるようになってからである。遅い目ざめ、後悔先に立たずという言葉を思わずにいられない。

倉橋先生に関してはもう一つの後悔がある。それは教師の人間性の豊かさの問題だ。

戦前、教師になる人は師範学校とよばれる教師養成専門の学校で教育された。戦後は教師は教える技術と同じ比重で教養と人間性が問われることになり、師範学校は廃止され、大学で教職を希望した者に短期間の教育実習が実施されて教壇に立つ制度になった。

倉橋先生は教師の人間性を考えておられた。講義の中で歌舞伎の出しものや役者の話、文学の話をよくされた。学生によく声をかけられた。そんな時、感情の起伏の激しい女子学生の神経は刺激を受けた。「××さんの肩に手をかけて話をした」「女形の話はいやらしい」等と囁きあった。若い女子学生にとって倉橋先生の印象は幼児教育理論の講義より他の要素の方が強かった。こうしたことはすべて教師となる人間にとって、教える技術よりもっと大事な豊かな人間性があることを考えておられることと気づくまでに可成りの時間がかかってしまった。その上、私はクラス代表として「教室の神聖を汚すようなことはしないでほしい」と抗議に行くという念の入ったニガイー思い出まであるのだから救いがない。

戦後間もなくラジオで先生と対談することになった時、事前にお宅に伺って学生時代の未熟さとその言動を心からお詫びした。

「若い者はいつの時代も同じこと。あなたも年をとったということだろう。幼児教育が物を云うのはこれからですよ。がんばりなさい」といわれてほっとした。が、今も私の心の片隅に倉橋先生に対する忸怩たる思いが拭い去れないでいる。

私はTBS系のラジオ番組で毎日、三十二年間話し続けている。四月半ば九千回になった。その中

で度々話すことは、「マンション住まいの人もプランターで小松菜、春菊等簡単に出来る野菜を育ててごらんさい。」ということである。

太陽の光、水、肥料で野菜は育つが、すべてやり過ぎても少なすぎても駄目。程良い水やりと肥料の与え方、太陽の光に注意することでのびのびと育つ。これは子育ての心に通じると話しながら、いつも倉橋先生のいわれた自発性の尊重と園丁の目と腕と心という話を思い出している。

偉大な教師に心から感謝したいと思った時、先生は私がお話できない所に行かれてしまっていた。こうした後悔をくり返しつつ年を重ねている私である。

鈴木貞子 昭和十年卒

先生の講義を、女学校を出たばかりで予備知識も無しでお聞きしたのは、誠に勿体ないことで、その真意は後年になって気付くことが多々ありました。

何十年も経た今日、先生のお言葉は生き生きとよみがえり、何時の時代でも、真実を語りかけて下さいます。

「幼児は丸くて柔らかくて、つゆのように輝き、傷つき易くこわれ易いもの。順風に吹き寄せられる帆かけ舟のように寄ってくるもの。」保育者の心くばりを考えさせられます。

先生の提唱された水曜会は、今川焼やお団子で楽しみ、人間関係作りの大切さを学びました。その後、年2回のクラス会として続いております。

堀合文字 昭和十四年卒

倉橋先生の思い出をとのお話に、私にとって思い出ではないのです。今も私の中には先生がいてくださるのです。ですからここまでこられたのだと自分自身自負し、信じております。

昭和十三年の学生時代に授業を受け、何が何だかわからなかったその頃も夢中で話を聞き、いや、お話の中に引入れられてしまい、アハハハ……と笑いころげている中に時間が終わってしまいノートを整理をし勉強する時は何と伺ったのかノートがとれず試験には困った事を覚えています。

いざ、現場に入り、遊びが大切、遊びが大切と自分を無にして自分に言いかせて遊びの中で幼児教育をやってきた一言につきます。

戦後、認定講習という会が諸々に開かれ、お茶の水女子大学でも開かれました。その時は戦後物資の乏しい頃でノートもあまりなく小さなノートに鉛筆でかき、今見ると黒くこすれて読みにくい位の筆記ノートをとりました。

それは当時の新教育の幼児教育法の解説から始まり質問形式になっております。

戦後は私も、毎日の計画があつて時間がくると今日の計画を経験させるために「○○の組お入り」と子どもたちを自分たちの前に集めてやって平気な時がありました。子どもたちの遊びをよく見る時、「何かおかしい」「これでよいのか」との自問自答の末いつもそのノートを何度も読みました。

幼稚園真諦も読みました。読めば読む程、何か違う。倉橋先生はもっともつと自由（正しい自由）をさげんでいらっしやるのではないかしら。現場で実践する私共保育者がそれを実践してゆかなければ

ばいけないのではないかしら。何か違う。そのたびにノートと真諦を何度くりかえし読んだ事でしょう。読むたびに私に何か違う事を教えてくださるのです。今やっている自分の保育、又周囲をみまわしてみられる保育の実践とは違う事をこの本から教えてくださるのです。

「広っぱへいってあおむけにねて、大ごえでみんなでさげんでごらんさい」という事を伺った。その中には色々の意味があります。

こんな間々の中に幼児の生活をこわさないでその中で教育しようと覚悟して我々が生活へ出かけていく事にしました。約二十年前になるでしょう。種々の問題もありましたが現在ある私も、倉橋先生のいろいろのお言葉が私に教えてくださった結果です。

それが現在のこの世の中に生まれ育っている幼児たちに大切な幼児教育の実践となつてゆく事は今更のように倉橋先生の教えに敬服しております。

唯、時代は流れ、子ども達は日に日に変化しているのが現状で倉橋先生の保育原理を根底において、前と同じ様に実践するのではなくて今の子ども達にあつた教育を作り出してゆく、それも言うまでもなく一人一人皆ちがいますのでその人にあつた教育をしてゆく事こそ倉橋先生の教えをうけたものの一人として使命であると感じております。

時代時代、一日、一日違っている事、教師がその人の教育をその場で考え出す事これこそ倉橋理論が現在に生きている事ではないでしょうか。

終わりにすり黒くなったノートの一部を記しましょう。

幼児の生活形態と言う事。

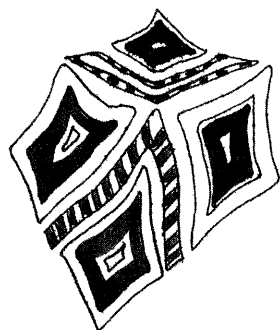
〔例〕 金魚は水の中にいる。それが泳げるべき形態である。泳げる事が金魚に対する場である。

蛍を愛する人あり、美しき籠に入れて鑑賞する光る蛍を光らせるためにたいたり、水をかけたりするが蛍は光るものでなく、飛んでいるものであります。

幼児を一部屋に集めて、これからお話をするから聞きなさいと言うのは幼児の生活形態ではない。形や目的方法は先生の考えによって考えられるが場としての生活形態が出来るだけ自然のものでなければならぬ。

(こういう人あり、幼児を教育したいと思い、お話はこういう風に唱歌はこういう風にと思うけれど幼児を入れておくのは彼等は幼児そのものの目的、形、目標をもってゆく。と言うの感心なり、いわゆる出かけ保育なり)

幼児はその目的を達してもらうために、その方法を達してもらうために特殊なる場所におかれたいのであります。



幼児の生活をそのままにしておいて我々の目的目標を達成するのがよいと思います。

出来るだけ幼児を生活の場たらしめたい、どんな教材をとおもう前にすべき事でありましょう。

保育を受けるにふさわしき形態におくに止まらず、自ら自身の生活ができる幼稚園としておきたいものであります。……以下略……

教育の本質が行われてゆく上に子供と貴女との関係が如何かと言う事が大切な事。

○子どもを愛する人。保育の方法をする前に子どもの身辺の世話をする事が第一で、……中略……子どもに心あり、こちらの誠意は必ず子どもに通じる。……中略……

○子どもと共鳴しなければならぬ。

幼児はいろいろ心理を持っているが、たえず感興（興味）を持って生活している。その興味はすべてにおいて新鮮なり。驚きがすべて、響きがすべて、想像的、空想的なり。……中略……

共鳴できる先生はうれしい先生で共鳴するのが一つの使命なり。共鳴する事は子どもに切なる事で、我々は教育者なるがために子どもの中に何かを発見しなければならぬ。……後略……

以上筆記の一部にすぎず、前後がないと理解しにくい所もありますがすべて大切な大事な言葉であった事を改めて明記しておきます。文部省からの今回の改訂もすべて倉橋理論及実践が根底にある事は私にはわからないながら自分なりに信じております。理論は理解する事は誰でも出来、言える事と思いますがそれを実践する事はむずかしい事という事も痛切に感じ、保育者は努力しなければいけない事も深く感じます。

相馬誠子 昭和十五年卒

「今、いさる先生の教え」

倉橋先生は、何時どこでも、誰にでも静かな暖かい笑顔で接しられ、心豊かな親しみ深いおじさまとも感じられた。二限にわたる保育の講義も、あつと云う間に終わる程、実演まじりの楽しい授業!! 笑いほうけているうちに、保育の真髓が次々と話され、あわてて真剣に記録をとる。その一言々々には、今でも感嘆せざるを得ない。『教育は人情の発露である。人情を土台として研究あり、設備あり、方法がある。』のお言葉には、私の人間性を問われている気がして反省した。又『子供にとって最も幸せなこと、教育として最も肝心なことも、我ら自身を与えることである』この事は、経験を経るほど、深い意味として私の心に刻まれている。又『園丁は花園に潤いを絶やさないうため、一滴の水も与え盡す。又じょうろに水を満たすためには、潤いのもとを絶えず汲み取らなければならない。しかし、潤いを要求している幼児に対して、すぐ涸れ易いのは私達の心である。私達は常に潤いの汲み手であり、与え手であること。そのためには、自ら進んで、美しい自然、音楽、芸能、美術に接し、自らの心に潤いを蓄えるようつとめなければならない。』この教えには特に共感を覚え、努力して来た。又『保育者は子供のために化粧をし、おしゃれをするように』薄化粧による自然美、色彩に調和のとれた品のある美は、良い美的感覚を育てるからだ。この偉大な倉橋先生にご指導を頂いた幸せを心から感謝すると共に、自分自身に一層の磨きをかけるよう努力し、先生のご恩にお報いしたいと思っている。

みんなで作ったかえうた、(二番) さあご一緒に歌いましょう。

♪ ふたつと出たワイのよさホイのホイ!!

太い倉橋御大のホイ!!

あとにヒヨコヒヨコついていくホイホイ!!

野辺繁子 昭和十五年卒

幼稚園は教育するところというより、子どもにとってはパラダイスであり、対象は幼児であり、その発達段階の個人差をふまえ、個々の自発性を大切にすることが大切である。また私共は、幼児の発達をケアする人にならねばならず、保育者である。

朝、登園児が一人でも門をくぐった時から、保育ははじまり、最後の一人が降園するまでが保育であり、保育者は幼児と共に楽しく遊びに加わりながら、降園前には十分な時間をとり、落ちつき、全員が紳士、淑女になって帰るようにする。保育終了後は、幼児一人一人の遊びの活動を記録する事により、個々の個別指導ができるようになるものだ。

幼児の生活は遊びであり、それは必ず、幼児の自発的な遊びでなくては充実感を持ち、又楽しいものにはならない。大人が勝手に計画し幼児を引きこんだものではなく、ひとり遊びから、個・団・組と楽しく遊んでいるうちに移行していくものである。

子どもの活動を見守り保育者のケアが必要な場をみつけて欲しい。

保育課程ではなく過程となさった御気持ちがよく分かるように思います。

菊地明子 昭和二十四年卒

マーブル先生は大理石のような先生、整って美しいが冷たいのですよ。温かさが第一。

お化け先生は白塗り、赤塗り子供はびっくり。(過剰なお化粧のいましめ。)

昭和二十三年春。実習科遠足の話し合い。○生「江戸川の土手はうらうらといい気持ちです。」「そう、うらうらとねえ。」とリズムカルに反復なさった先生の声が耳に。話を受容的に聞くことを教えられました。

実習生の前日、砂場の掃除をしながら「ヤマノミナサン……」と仕方話的に歌を身振表情まじえ口ずさんでいたら、何と先生がニコニコと後に……。カーッと血が上り金縛りにあった私。私の小さな秘め事。

ご多用のところ原稿をお寄せいただきました方々には、心から御礼申し上げます。

尚、倉橋先生をめぐって、お話をお聞きしたい方が無限におられますが、紙面の都合上割愛させていただきますことお許し下さい。(編集部)